

京都生協の活動のコト、
ぼくがご案内するワン！



CSR レポート 2017

事業・社会・環境活動についての報告書

組合員満足

職場づくり

公正な取引

環境活動

社会貢献

情報開示

経営責任

特集

住み慣れた地域で安心して暮らし続けるために





理事長 畑 忠 男

より府民から支持される京都生協へ

2016年度も京都生協の21世紀ビジョン『わたしの暮らし わたしたちの地域に 協同がはぐくむ 安心と笑顔』の実現に向けてとりくみをすすめてきました。生協は事業と活動を通じて、普段の暮らしを支え豊かにするとりくみを行っています。暮らしを支えるということは、安心してらせる社会の実現ということでもあります。京都生協は地域社会の一員としての役割をより積極的に発揮していこうと、新たなとりくみを行っています。

ひとつは、南山城村及び株式会社南山城(道の駅運営会社)と「地域活性化に関する包括連携協定」を締結し、丹後地域でも包括連携をすすめ、生活必需品の買物支援、地域製品の取り扱い、災害時の支援、見守り活動等、行政の皆さんとの連携を一層強めます。もうひとつは「コープでんき」の開始に向けた準備です。原発に頼らないエネルギー政策を掲げ、組合員がより環境に優しい電源を選べることや経済的にも暮らしに役立つことを目指して小売電力事業の準備をすすめてきました。

2017年度も、組合員の暮らしを支える事業の充実、多くの京都府民から支持される京都生協にするために、組合員・職員はもちろんのこと、生産者や取引先、行政・地域諸団体等、関係者との連携を大切にしていきたいと考えています。

このCSRレポートは、当組合の1年間の活動をまとめたものです。いまだ不十分な点も多いのですが、皆様から率直な意見を頂きながら、引き続き改善に努めてまいります。より一層のご支援とご協力をお願い致します。

京都生協が考える社会的責任

事業をすすめる組織として、人権尊重・法令順守は当然のこととしてとらえ、それ以外にも取り組むべき社会的責任についてISO26000(社会的責任に関する手引)を参考に7項目に分けまとめています。

- 1 よりよい商品・サービスの提供を通じて、組合員の満足を追求します。
- 2 誰もが健康でいきいきと働き続けられる職場づくりをすすめます。
- 3 取引先と対等な立場で、公正な取引と協力・協同の関係づくりをすすめます。
- 4 より環境負荷の少ない、事業・活動をすすめます。
- 5 地域社会の一員としての役割を積極的に担います。
- 6 組合員参加・コミュニケーションを促進し、情報開示と説明責任を果たします。
- 7 健全で強い事業経営を築き、組合員から負託された経営責任を果たします。

京都生協キャラクター
「きょうまる」が
ご案内します。



CSR(Corporate Social Responsibility)とは「企業の社会的責任」を意味します。
CSRレポートとはCSRの活動に関するとりくみをまとめた報告書です。
「CSR=企業の社会的責任」という理解が定着していますので、生協の社会的責任についても「CSR」という言葉を使用しています。

INDEX

特集

- 京都生協が取り組む買物支援 [4]
- 自治体・諸団体との連携 [5]

7つの社会的責任についての報告

1. 組合員満足
よりよい商品・サービスの提供 [6]
 2. 職場づくり
よりよい職場づくり [8]
 3. 公正な取引
公正な取引と協力・協同の関係づくり [10]
 4. 環境活動
より環境負荷の少ない事業・活動 [11]
 5. 社会貢献
地域社会の一員としての役割発揮 [16]
 6. 情報開示
組合員参加・情報開示と説明責任 [19]
 7. 経営責任
健全で強い事業経営への責任 [21]
- グループ会社の環境保全のとりくみ [22]
- 外部審査の結果 [23]

特集 ～住み慣れた地域で安心して暮らし続けるために



京都生協が取り組む買い物支援

個配手数料の子育てサポート割引制度を充実

妊娠中から2歳までのお子様がおられる家庭の個人宅配の手数料を無料にしました。これにより新たに7149人が、子育てサポートの割引登録を行い、個人宅配の利用を始めています。

子育てサポート割引

NEW 妊娠から満2歳未満のお子様がいっぱいする場合
満2歳まで 個配手数料 0円
(満2歳のお誕生日の翌月まで)

NEW 2歳以上から満3歳未満のお子様がいっぱいする場合
満3歳まで 個配手数料 95円
(満3歳のお誕生日の翌月まで) 【税込103円】
1回あたり



玄関先までお届けします

移動店舗「おかいもの便」

生鮮品や総菜などを積み込んで巡回供給を行っています。現在巡回エリアは大山崎町や京丹波町、福知山市に広がっています。今後さらにエリアの拡大やおかいもの便2号車を計画中です。



おかいもの便2号車



おかいもの便1号車と2号車

お買物サポートカー

店舗から片道15分の範囲内を送迎運行しています。週1回、各店舗で50分程度買い物できる買い物補助システムです。2017年3月20日現在、5店舗で6台のサポートカーを運行しており、今後も増車を検討しています。

サポートカーの車内は、地域のコミュニティの場にもなっています。



コープながおかのお買物サポートカー

夕食サポート事業

京都市、向日市、長岡京市、大山崎町、亀岡市、宇治市、城陽市、久御山町、八幡市で夕食のお弁当やおかずを週5日宅配しています。ご利用される方の様子にも目を配り、2017年3月20日現在1日あたり2940食の利用があります。

南山城村、(株)南山城と「地域活性化に関する包括連携協定」を締結

2017年4月に開業した道の駅「お茶の京都 みなみやましろ村」での提携事業、南山城村産品の京都生協での取り扱いなど、地域の活性化や生活向上に関する事業や活動について、連携して推進する体制を整えることが盛り込まれています。

災害時の支援、高齢者・買い物が困難な方への支援についても提携して取り組みます。



南山城村、(株)南山城との包括連携協定書調印式



コープ商品が並ぶ道の駅「お茶の京都 みなみやましろ村」の店内

丹後地域の自治体・諸団体との包括的な協力に向けた準備

南山城村に続き、京都府北部の宮津市、京丹後市、与謝野町、伊根町と「食のみやこ 丹後王国」他6団体との包括連携協定を締結するための準備をすすめています。南山城村と同様に、地域の活性化や生活向上に関する事業・活動等について提携して取り組むことを目指しています。



「食のみやこ 丹後王国」に集品した丹後地域の産品が京都生協へ納品されます



丹後王国敷地内貸農園で野菜作りを始めている京都生協のテーマ・コミュニティ※「はじめの一步」

※京都生協は社会的なテーマを継続して学ぶグループを応援しています。

農地のもつ機能の保全へ 京都モデルファーム運動に参加

京都府のすすめる「京都モデルファーム運動」に参加しています。これは農地がもつ洪水の予防や地球環境の保全、美しい景観の形成、伝統文化の継承、食育や環境学習などの農業者だけでなく、京都府民全体で協働して維持・保全を図る運動です。

京都生協は、2015年に京丹後市袖志地区の棚田保全活動、2017年3月13日に福知山市三岳地区の京都大納言小豆復活の運動について京都府や生産者と協定を締結しました。保全活動だけでなくその地域農産物の供給事業にも取り組んでいます。



福知山市役所で行った協定調印式



復活をめざす京都大納言小豆

よりよい商品・サービスの提供を通じて、組合員の満足を追求しています



コープラボでの理化学検査の様子

安全・安心な商品提供のとりくみ

●微生物検査

2016年度、日本全国で食中毒になられた方の原因の約93%は微生物によるものでした。つまり、食品中の微生物を正しく管理することが、安全な食を提供することにつながります。生協では独自の基準を設け、微生物検査を行っています。検査の対象は、京都生協コープ商品、店舗で製造された刺身や寿司、揚げもの、京都協同食品プロダクトで製造された刺身や肉、産直卵などです。さらに店舗の調理器具などのふき取り検査も実施しています。

2016年度は、2940検体の微生物検査を行いました。



微生物検査の様子

●理化学検査

理化学検査には食品添加物、残留農薬、放射性物質などの検査があります。検査する対象商品は、京都生協コープ商品・産直商品を中心に、コープラボ（コープさんき事業連合の検査センター）などの検査施設を活用しながらすすめています。

2016年度は264検体の理化学検査を行いました。

●産直商品の点検

産直商品の点検では、産地から提出された仕様書どおりに生産されていること、農薬・動物用医薬品の使用した記録がきちんとつけられていること、選果場や加工施設の衛生管理、圃場や農場の管理が適切に行われていることなどを確認しています。2016年度は95産地（青果物、米、畜産物、鶏卵、牛乳）の点検を行いました。



みかんの産地点検の様子

●京都生協コープ商品の工場点検

京都生協コープ商品の点検では、仕様書どおりの原料や方法で製造されていること、工場内の整理整頓が行われていること、衛生管理が正しく実施されていることなどを点検しています。特に組合員への危害が想定される衛生管理に関わることやケガにつながるような異物混入の防止対策については重点的に確認しています。2016年度は21取引先の点検を実施しました。

●検査等についての情報公開

機関紙コーポロやホームページ、宅配事業のカタログ等で京都生協の品質保証にかかわる情報を公開しています。食品中の放射性物質検査結果等を2011年以降欠かさず一覧化してホームページで公開し、情報提供に努めています。



品質保証にかかわる情報を掲載したチラシを配布

事業を通じて

●小売電気事業

15ページに特集しています。

●宅配事業

週1回、注文された商品を決められた場所へ配達するシステムです。京都府全域をカバーし、商品をお届けしています。2016年度は週平均17万3961人の利用がありました。

お弁当を宅配する「夕食サポート」の利用は2940食に広がりました。また、視覚障がいのある組合員61人が商品カタログの内容を録音した「声のキャンバス」を利用しています。



共同購入の配達の様子

●店舗事業

日々の買い物を通じて暮らしを応援しています。2016年度は1日平均3万3505人の利用がありました。

「コープ祝園駅」「コープパリティ」を改装し、選ぶ・買う楽しみが広がりました。65歳以上の組合員の買い物割引を行う「いこいこシニアデー」利用者数は、全店で6万1110人（前年比172%）となりました。



改装したコープパリティ

●福祉事業

住み慣れた我が家で安心して暮らし続けられるよう、在宅での生活を支援しています。

「介護事業」では、毎月延べ約2100人の利用者を対象に、約300人の職員（ヘルパー含む）が支援を行っています。「福祉・暮らし相談窓口」では、各事業やサービスと連携し、組合員からの問い合わせに対応しています。2016年度は243件（前年202件）の相談がありました。

●葬祭事業

葬祭事業は、「生協なら葬儀も安心」という組合員の願いからスタートしました。葬祭に関わる相談には年中無休で対応し、仏壇仏具などの展示販売も行っています。

2016年度は641件（前年比90.9%）の「クオレ葬」の利用がありました。共済事業部と協力し「エンディングノートの書き方学習会」を開催しました。他にも葬祭ホール見学会や相続・遺言学習会など、組合員の学習機会を広げました。



クオレ案内センター

●共済事業

全国の生協組合員どうしの助け合いによる保障制度です。京都生協の医療・生命共済契約件数は22万300件（前年比101.6%）で、2016年度は3万6500件（前年比100.6%）の共済金を給付しました。

保障について気軽に相談できる共済カウンターを10店舗に設置しています。



コープ祝園駅の共済カウンター



2016年度 PICKUP

- ◆微生物検査では2940検体の検査を行いました
- ◆「いこいこシニアデー」利用者数が6万1110人（前年比172%）になりました
- ◆2店舗の改装を行いました ◆個配手数料割引の対象を広げました（5ページ参照）

昨年のレポートの感想から

- ・おかいもの便のエリア拡大を期待しています。
- ・夕食サポートを利用している母がとても楽になったと申しております。

2 職場づくり

誰もが健康でいきいきと
働き続けられる職場づくりを
すすめています



宅配事業のコンテナを洗浄する
ハートコープきょうとの社員

「京都はあとふる企業」として認証

京都府は障がいのある方を積極的に雇用している企業に、「京都府障害者雇用推進企業（京都はあとふる企業）」として認証しています。京都生協は、(株)ハートコープきょうとをはじめとして、障がいのある方たちの雇用を増やしたことから、認証されました。



障がい者雇用率は3.04%に

ハートコープきょうとを含め、京都生協グループで働く障がい者は26人、障がい者雇用率は3.04%（前年2.96%）となりました。

(株)ハートコープきょうと※

(株)ハートコープきょうとでは、宅配事業のコンテナ箱洗浄や、回収したリサイクル品の選別等の事業を行っています。2016年度は京都生協本部の紙類リサイクル回収・分別も事業に加えることで、新たに1人が加わり、現在14人で事業をすすめています。2013年の開設以降、雇用された全員が勤務を継続しています。

※障がい者の自立と、障がい者雇用の拡大を目的に設立した特例子会社

業務改善提案制度をスタート

問題点を発見し個人やチームで改善した事例を共有する業務改善提案制度を始めました。2016年度は職員から180件の事例が報告され、その事例は他の事業所でも実践されています。業務改善提案制度は、一人ひとりが小さな気づきを大切に、組織を良い方向に導く制度として今後も運用をしていきます。



業務改善提案事例の報告の様子

職場労働安全衛生委員会を各職場で開催

職場労働安全衛生委員会を中心に、各事業所・部局では毎月リスクの発見・分析・対策の視点共有をはかり、安全で働きやすい職場づくりをめざしています。また、職員数50以上の事業所では産業医による職場巡視を実施しています。6月・11月は労災ゼロ月間のキャンペーンに取り組みました。

職員研修

各種研修により職員の成長を支援し、働きがいのある職場づくりをすすめています。

●入協1～3年目 までの職員を 対象とした フォローアップ 研修

入協1年目研修では、配属後の状況を交流しています。仕事の意味ややりがい、向き合い方を考え、モチベーションアップにつなげました。2～3年目研修では、これまでの仕事を振り返り、自分自身の働き方や今後のキャリアを考える機会としました。

入協後3年間は生協職員としてのベースをつくりあげ期間と考え、職員の育成と力量向上をめざしています。



入協1年目研修の様子

●職員自主 研修会

「京都生協の理念と社会的役割や成果・これからのミッション」のテーマで職員自主研修会を開催しました。世代や部門をこえた職員どうしでグループ討議を行い、一人ひとりが意見を出していく大切さ等も含めて学びました。



職員自主研修会の様子

●海外研修

日本生協連が主催する「アメリカ西海岸流通セミナー」に、7人の職員が参加しました。消費者から高い支持を受けている小売店舗を視察し、品揃え等について研修しました。

他にも「欧州協同組合研修」へ職員を派遣し、協同組合の多様性等を学びました。



研修先のアメリカのスーパーの売り場

各種制度活用数等

	2016年度実績	制度内容等
「育児休職制度」活用者数	5人(うち男性1人)(前年3人)	休職期間満了後引き続き勤務することを希望する職員が、育児のために子どもが3歳に達するまで休職できる制度
「育児時短制度」活用者数	4人(うち男性1人)(前年8人)	保育所の保育時間の関係で通常通りの勤務が困難な場合に、安定して働けることを目的に勤務時間を短縮できる制度
「介護休職制度」活用者数	1人(前年1人)	休職期間満了後引き続き勤務することを希望する職員が、一定期間介護するために休職できる制度
「高齢者嘱託制度」活用人数	4人(前年5人)	55歳以上の正規職員が勤務形態を選択できる制度
「健康診断」の受診率	95.6%(前年94.9%)	そのうち人間ドック利用人数127人
「ストレスチェック」の受検率	84.0%(前年なし)	自身のストレス状態への気づきを促すことや、働きやすい職場環境を形成するために取り組んでいます

職員構成

		2016年度	2015年度※	2014年度
		合計	合計	合計
正規職員数	男性	511人	512人	514人
	女性	151人	132人	76人
	合計	662人	644人	590人
正規職員 新規卒業者 採用実績	男性	7人	5人	3人
	女性	11人	9人	3人
	合計	18人	14人	6人

※2015年10月から、店舗・福祉の嘱託職員(有期雇用契約)を専任職員(無期雇用契約)に移行

2016年度での新規採用正規職員の3年以内離職率は5%(38人中2人離職)でした。



2016年度 PICK UP

- ◆障がい者雇用率は3.04%となりました
- ◆業務改善提案制度を開始し、180件の事例が提出されました

昨年のレポートの感想から

・職員教育をすすめて、明るく働きやすい職場になるよう努めてください。

3 公正な取引

取引先と対等な立場で、
公正な取引と協力・協同の
関係づくりをすすめています



虹のフェスティバルの様子

地産地消商品の取り扱いの広がり

全店舗の農産売り場に地産地消コーナーを常設し、地元の旬の野菜を生産者とともに紹介しています。コーナーでの供給高は2億5746万円(前年比121%)となりました。また生産者が直接農産売り場に来ることで、組合員との交流も生まれています。



常設の地産地消商品の売り場

「せいきょう虹の会」と連携

「せいきょう虹の会」は、京都生協の取引先メーカー・生産者が集う会で、京都生協創立20周年を機に設立されました。以来、「共同互助の精神に基づき、会員相互の研修と親睦を図るとともに、京都生協との連帯を通じて、平和とくらしを守る生協運動発展と会員の事業発展に資すること」を目的にかかげて活動している頼もしいパートナーです。

●商品大交流会

「せいきょう虹の会」と協力し、第19回商品大交流会を開催しました。出展は92ブース、試食や展示のほか、各種イベントが催され、参加者は生協の取引先メーカー・生産者と交流を深めました。



商品大交流会の様子

●虹のフェスティバル

組合員と「せいきょう虹の会」に参加する取引先の生産者・メーカーとの交流を目的に、各地域で「虹のフェスティバル」を開催しています。2016年度は、151の取引先の参加があり、23会場で開催しました。

生産者と協力した商品

●さくらこめたまごの応援金

京都の休耕田、耕作放棄田を活用して飼料米をつくり、その飼料米を餌として京都で育てたにわとりが産んだ「さくらこめたまご」は、1個あたり1円が飼料米生産者と養鶏業者を支える応援金となっています。2016年度の応援金は397万7510円となりました。

●サンゴ再生もずく基金

基金対象商品の「もずく」を購入することで、1商品あたり1円が沖縄のサンゴ礁再生を支援するための基金となるとりくみです。(株)井ゲタ竹内、恩納村漁協とともにを行っています。2016年度は20万7476円を恩納村漁協に送付しました。



植え付けられたサンゴが産卵する様子

取引先との協力・協同の関係づくり

●お取引先用コンプライアンス相談窓口

京都生協との取引に関わって、コンプライアンスに違反、またはその疑いがある場合に相談できる「お取引先用コンプライアンス相談窓口(外部窓口)」を用意し、すべての取引業者へ案内しています。2016年度の相談はありませんでした。

●「反社会的勢力との関係遮断」の覚書締結

2016年度、すべての取引先と「反社会的勢力との関係遮断」の覚書を締結しました。



2016年度 PICK UP

- ◆常設の地産地消売り場が全店舗に広がりました
- ◆商品大交流会での出展ブース数は92、虹のフェスティバルには延べ151の取引先に参加いただきました ◆さくらこめたまごへの応援金は397万7510円でした
- ◆サンゴ再生もずく基金として20万7476円を送付しました

昨年のレポートの感想から

・地産地消売り場の広がりで、これまでより生産者と交流しやすくなるのでは、と期待しています。

4 環境活動

より環境負荷の
少ない事業・活動を
すすめています



京都生協本部のグリーンカーテン

SR(社会的責任)・環境目標と実績

SR・環境方針に基づいてとりくみをすすめています。

京都生協は、人間と環境との調和をベースに自然と社会の仕組みを相互関連の中で総合的に捉え、「持続可能な社会の実現への貢献を最大化」することが最重要課題のひとつであることを認識し、組織をあげてSR(社会的責任)活動の向上とともに環境負荷の低減に努めます。

SR・環境方針に基づいた取り組み

SR・環境方針に基づいて、目標を設定し取り組みました。

[評価基準]：A 良好(100%以上達成)、B やや不足(90%以上達成)、C 不適合(90%未満)

SR・環境目標	2016年度の取り組み	関連ページ	評価
CO ₂ 排出総量を2020年までに、05年対比で15%削減します。15年度CO ₂ 排出量は、11,588tで、14年比96.8%、05年比79.0%の到達。16年度は15年度比1%(△116t)の削減を目指します	CO ₂ 排出量は、1万1790tとなり、15年比101.7%、05年比80.4%の到達です。コープ宇治神明、コープ祝園駅のリニューアル、建替えに伴うコープ京田辺の閉店で削減がすすみました。一方、コープ御所南の建替えに伴う面積増や、洛南支部移転に伴う電気使用量の増などもあり、目標には届きませんでした	P12	B
環境配慮商品の普及に取り組みます(供給数量 前年比101%)	日本生協連のコープ商品の飲料分野でFSC※の紙パックの使用が進み、供給数量は大きく増加しました ※FSC:森林の環境保全に配慮し、地域社会の利益にかなう、経済的にも持続可能な形で生産された木材を使用した製品	P14	A
食品リサイクル率の向上を図ります ●16年度は、リサイクル率40%を目指します	京都市内の店舗で、野菜くずのバイオガス化によるリサイクル量を増やし、リサイクル率は39%(前年36%)に改善しました	P14	B
リサイクル回収総量の向上(前年1%増)	回収総量4683t(前年4614t) 前年比101.5%と増加しています。牛乳パック、卵パック、食品トレーで減少(57%)していますが、その他の品目で前年を上回りました	P12	A
タブレット等を活用した会議をすすめペーパーレス化を推進します ①本部内一用紙・印刷代2015年度比80% ②宅配運営部一用紙・印刷代2015年度比50%	宅配事業系統の主な会議をペーパーレス化したことで、宅配運営部の用紙使用量は大きく削減できました。本部全体としては、削減をすることができませんでした ①3170万円(前年比103.2%) ②25万円(前年比59.7%)	—	C
地域社会の要望に基づいた施設見学や研修等の受け入れ、学習会の実施に取り組みます(年間100回以上)	店舗見学や、職場体験、インターンシップ受け入れなど50回の研修の受け入れ、77回の学習会を実施しました	P15	A

地球温暖化防止自主行動計画の推進

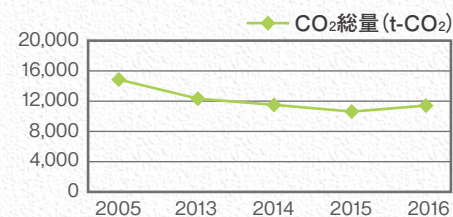
京都生協は、地球温暖化防止自主行動計画を作成し、CO₂排出削減に取り組んでいます。2013年度からの総量削減長期計画では、2020年までに2005年度対比で15%のCO₂実排出量削減を計画しています。

事業活動を行う中で2016年度1年間で排出したCO₂の総量は、1万1790tとなりました。これは東京ドーム4.8杯分にあたります。2015年度比101.7%、2005年度比80.4%の到達です。供給高1億円あたりのCO₂排出量は、1.62(前年比99.8%)となっており、原単位でみるとわずかに改善がすすんでいます。延床面積×営業時間(1万当り)を原単位として店舗の排出量を見ると、14年度13.27、15年度13.95から16年度は14.04と改善できませんでした。

※排出値には、日本生協連の地球温暖化防止自主行動計画の基準に沿って、京都生協100%出資子会社及び個配委託先の燃料使用量が含まれます。

CO₂総量

1万1790t
東京ドーム4.8杯分



詳しい数値実績は
webで公開中!
右の二次元バーコードから

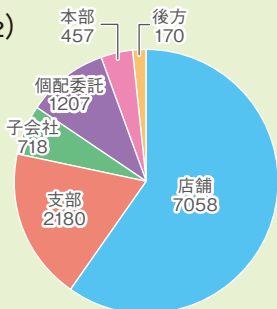


京都生協事業における環境配慮

検索

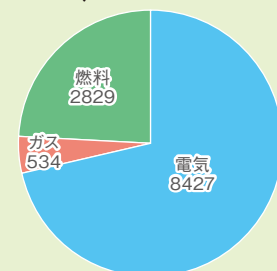
業態別排出量 (t-CO₂)

■ 店 舗	7058
■ 支 部	2180
■ 子 会 社	718
■ 個配委託	1207
■ 本 部	457
■ 後 方	170



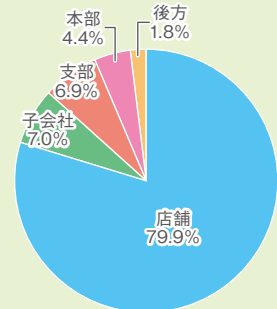
エネルギー別排出量 (t-CO₂)

■ 電 気	8427
■ ガ ス	534
■ 燃 料	2829



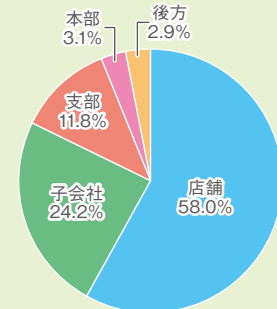
電気使用量

■ 店 舗	79.9%
■ 子 会 社	7.0%
■ 支 部	6.9%
■ 本 部	4.4%
■ 後 方	1.8%



ガス使用量

■ 店 舗	58.0%
■ 子 会 社	24.2%
■ 支 部	11.8%
■ 本 部	3.1%
■ 後 方	2.9%



車両燃料は、97%が宅配の業務によるものです。支部では配送コースの見直しによる燃料使用量の削減のとりくみをすすめ、2012年度からエコドライブの講習会を各支部で実施しています。LPガス車両については、リース切れに伴い順次軽油車両に移行しています。個別宅配の配達ポイント数の増加に伴い、委託先での燃料使用量が増加しています。

2015年4月の改正フロン法施行に伴い、空調・ショーケース等の機器の管理台帳を作成し、定期点検を実施しています。2016年度の漏えい量はCO₂換算で99.8tでした。

地球環境のために

3R(Reduce:発生抑制・Reuse:再利用・Recycle:再生利用)のとりくみにより、廃棄物を減らし、資源循環することができます。2016年度、組合員のとりくみで削減できたCO₂は1071t-CO₂と想定されます。

●マイバッグ持参/ レジ袋発生 抑制の取り組み

身近なごみ減量のとりくみとして、1983年より下鴨組合員センター(現コープ下鴨)で組合員へマイバッグの持参を呼びかけました。1996年からは全店舗でレジ袋1枚5円の有料化を行っています。マイバッグの持参率は、2016年度は93.4%(前年94.0%)でした。

◆2016年度レジ袋想定削減数:1214万枚

◆削減数の原油換算(1枚当たり10mlとして)121キロリットル
ドラム缶(200ℓ)で



× 約607本に相当

◆地球温暖化防止に貢献

▶(1枚当たりのCO₂排出量42gとして) 510tの削減

※レジ袋代として集まった環境資金は426万7030円です。全額を環境リサイクル費用に充当し、不足分を経費で補っています。

詳しい数値実績は
webで公開中!
右の二次元バーコードから



組合員とともに取り組む環境活動

検索

●容器包装 リサイクルの とりくみ

共同購入・個配では配達時に、店舗ではリサイクルコーナーを設置して回収しています。

リサイクル資源	回収方法	再生利用	回収量、回収率= 回収量 / 供給重量
紙パック	担当者へ (共同購入・個配・店舗で回収)	トイレットロール、ティッシュペーパーなど	回収量130トン 回収率50% (前年49%) 削減CO ₂ =116トン
食品トレイ	店舗回収BOX (店舗のみ回収)	食品トレイ、文具など	回収量15トン 回収率49% (前年130%) 削減CO ₂ =76トン
PETボトル	店舗回収BOX (店舗で回収16店舗)	PET素材の制服、水切り袋	回収量85トン 回収率175% (前年191%) 削減CO ₂ =277トン
カタログ類	担当者へ (共同購入・個配で回収)	カタログ類	回収量4427トン 回収率77% (前年77%)
卵パック (パックに切り込みがあるA-PET素材のみ)	店舗回収専用ラック (共同購入・個配・店舗で回収)	卵パック	回収量25トン 回収率43% (前年48%) 削減CO ₂ =92トン
内掛け袋	担当者へ (共同購入・個配で回収)	植木鉢など	回収量30トン 回収率24% (前年23%)

※削減CO₂量は、「環境省作成の3R行動による環境負荷削減効果見える化ツールVer1.2」を使用して算出しています。紙パックの回収量には、アルミ付き紙パックの回収量も含まれています。上記以外に、全店舗でボタン電池の回収、コープ西陣のみアルミ缶の回収を行っています。

●PETボトル キャップの回収

2010年5月より全店でPETボトルキャップの回収を開始しました。回収したキャップの売却益は、プラスチック再生事業者を通して、認定NPO法人「世界の子どもにフクチ」を日本委員会(JCV)」へ寄付されます。2016年度は444万個(10万3400円)を供与しました。

廃棄物の削減・再資源化

●店舗での発生抑制のとりくみ

廃棄物の排出は環境負荷につながるため、商品供給を適切に管理し廃棄物を減らすことが大切です。店舗では、環境負荷の低減とコスト改善に役立てるため日常的に廃棄量の削減に取り組んでいます。

●事業活動での再資源化のとりくみ

①食品廃棄物

店舗から回収された食品廃棄物は、再生利用事業者のプラントでの飼料化や、バイオガス発電としてリサイクルされています。2016年度は、18店舗で305t(前年比131%)をリサイクルしました。

②廃食油

店舗の惣菜の加工などで出された廃食油は、2016年度は34kLでした。全量回収して専用業者に引き渡し、京都生協の配送車両のバイオディーゼル燃料(BDF)に加工されています。トータルでのリサイクル率は、38.9%となっています。



環境配慮型商品の普及

エコマーク、有機JAS、MSC認証などの社会的に認知された外部基準をクリアし、認証を取得した商品の普及にも取り組んでいます。

	内 容	利用点数	前年比	利用金額 (万円)	前年比
CFP	商品を原材料から作り、運び、消費者が使い、そして廃棄・リサイクルされるまでに二酸化炭素(CO ₂)がどれだけ排出されているか計算し商品に表示したものです	763,172	116%	23,594	113.7%
FSC	森林の環境保全に配慮し、地域社会の利益にかなない、経済的にも継続可能な形で生産された木材を使用した製品です	789,149	156%	30,719	163.8%
MSC認証	海の資源を枯渇させないよう、量や漁法・漁の時期などに配慮した水産製品です	171,165	112%	10,437	186.4%
エコマーク	生産から廃棄を通して環境負荷が少なく、環境保全に役立つと認められた商品です	609,303	105%	29,806	103.0%
レインフォレスト・アライアンス	環境面・経済面・社会面での厳しい基準をクリアした農園経営への認証です	46,025	109%	1,288	113.0%
特別栽培農産物	生産された地域の慣行栽培と比べて農薬の使用回数50%以下、化学肥料の窒素量を50%以下で作られた農産物とその製品です	10,991	48%	1,696	43.5%
有機JAS	一定の基準で農薬や化学肥料を使用しないで作られた農産物とその製品です	226,272	97%	6,282	98.1%
バードフ렌ドリー・コーヒー	シェードグロウン(木陰)栽培で有機栽培されたコーヒーの認証。環境と動植物保護に配慮したコーヒーの栽培を推進します	4,736	83%	212	78.8%
さくらこめたまご	10ページ参照	445,223	97%	9,762	102.1%
サンゴ再生もずく基金	10ページ参照	207,476	100%	—	—
総計		3,273,512	113%	113,796	119.4%

2016年の特徴的なとりくみ「小売電気事業」

●小売電気事業開始の準備をすすめました

2016年4月より電力小売が全面自由化となり、一般家庭でもライフスタイルや価値観に合わせて、電力会社選びができるようになりました。

京都生協は2016年6月に、新電力に関するアンケートを実施。「価格」や「電源の種類(再生可能エネルギーの割合)」への関心が高いことがわかりました。このような声を受けて、2017年4月より「原子力発電に頼らないエネルギー政策への転換」の立場を大切にしながら、より経済的な料金で電気を利用できるよう、小売電気事業の準備をすすめました。

小売電気事業をすすめるにあたり、学習会を開催しました



エネルギーの学習会を開催

関西学院大学総合政策学部教授の朴勝俊(パクスンジュン)氏から「これからのエネルギーとのつきあい方」というテーマで、電力自由化についてや、節電の大切さについてお話し頂きました。



各地でコープでんきについての学習会を開催

組合員へ向けての学習会を京都府内一円で開催しました。参加者からは「生協なら配達時、気軽に聞けるので安心です」「どのように発電された電気かわかるので、生協に変更しようと思います」等の声が出ました。

トピックス

グリーンカーテンコンテスト

夏の節電に役立ててもらおうと、応募のあった2325人にゴーヤの種を配布し、グリーンカーテンコンテストを実施しました。参加者からは「涼しくなったので、エアコンから扇風機に変え、昨年より電気代が半分で済みました」の声も上がりました。



コンテストに応募のあったグリーンカーテン

夏休み子どもエコ教室を開催

小学生を対象に地球温暖化のことを学ぶ場として、夏休み子どもエコ教室を京都生協の店舗等の京都府内5会場で開催しました。参加した子どもたちからは「コープのお店がこんなにエコに取り組んでいるなんて知らなかった」の感想がありました。



太陽エネルギーについての説明を受ける子どもたち



2016年度 PICKUP

- ◆事業活動を行う中で輩出したCO₂の排出量は1万1790tでした
- ◆レジ袋の想定削減数は1214万枚でした ◆小売電気事業を開始しました
- ◆食品廃棄物の再資源化については18店舗で305tをリサイクルしました

昨年のレポートの感想から

・地球環境の保全につながるとりくみを今後も期待しています。

地域社会の一員としての役割を積極的に担います



京都市内を配達するトラック

防災、子育て、被災地支援

●宅配事業の安全運転のとりくみ

重大事故を発生させないように安全運転教育に力を入れ、地域の模範となる安全運転を心がけています。「安全運転管理委員会」を毎月開催し安全運転を推進するとともに、事故の発生状況については軽微なものを含め毎月リスク管理委員会で発生状況を確認し、要因の分析と対策をすすめています。



宅配事業の安全運転大会

●自治体と取り組む地域防災

京都府生協連が京都府と締結している「災害時における応急対策物資供給等に関する協定書」(1997年)に基づき、発災時は京都府の要請を受けて支援物資の調達・輸送に協力します。

また京都生協は京都市と「災害時における物資の調達及び配送に関する協定」を締結しています。



南丹市で開催された京都府防災訓練

●見守り協定締結の推進

自治体や各市町社会福祉協議会と協力して取り組む配達時の見守り協定の締結は、新たに南山城村を加え22のエリアに広がりました。2016年度は、配達中に異変を感じた職員による21件の通報がありました。

通報事例として「玄関が開いているのに返事がない」ことから通報し、後日「玄関を閉め忘れて出かけていた。安否を気遣ってくれて本当に感謝している」という連絡をいただいたこともありました。

●きょうされんとの提携

1990年に協定書を締結し、提携活動をすすめてきました。宅配の商品カタログに定期的に作業所で作られる商品を掲載しています。2016年度は交流会やボランティア活動、署名・募金などの取り組みに、延べ290人の組合員が参加しました。

2018年9月に京都で開催される「きょうされん全国大会in京都」の実行委員会への参加を決定しました。

トピックス

コープ宇治神明が「買い物支援」の検証に協力

コープ宇治神明では2016年12月～2017年1月にかけて、宇治市で行う「認知症の人が安心して買い物のできる店」の検証実験に協力しました。



検証実験の様子

第40回全国育樹祭へ参加

第40回全国育樹祭へモデルフォレスト運動の推進企業として参加し、京都府知事より感謝状を受け取りました。



感謝状

●子育てを応援

くらし・子育てに役立つ情報やコミュニティの場の提供を目的に、「子育て応援サイト」を公開しました。また、京都府内在住で1歳未満の子どもがいる家庭を対象に「お誕生おめでとうプレゼント!」企画を実施しました。「子育て応援グッズ」には1870人の応募がありました。

誰でも参加できる「コープの子育てひろば」を新たに京都市中京区・伏見区で開設しました。京丹後市のひろばと合わせ、3カ所となりました。

未就学児の親子を対象とした「0歳児からの音楽会」を開催し、参加者からは「子どもを連れて気兼ねなく楽しむことができた」と好評でした。



子育て応援グッズをプレゼント

●食育活動のとりくみ

京都府生協連や京都聖母女学院短期大学とも協力した親子料理教室などのとりくみを25会場で開催し、657人の参加がありました。



京の食文化ミュージアムあじわい館で開催した親子料理教室

●各種学習会を開催

◆適塩学習会を開催

京都府内5カ所で、食生活で塩分量をコントロールする大切さを学ぶ学習会を開催しました。

◆奨学金問題に関する学習会を開催

京都府生協連、大学生協関西北陸ブロック京滋・奈良エリア、京都労働者福祉協議会との共催で、中京大学の大内教授を講師に、奨学金問題の学習会を開催しました。



奨学金問題に関する学習会で質問する大学生

●ウェルカムパーティ

地域で気軽におしゃべりできる場づくりを応援しています。生協の商品を囲んでパーティを開いてもらうというこのとりくみに、1万3000人を超える参加がありました。パーティでは、保育園や塾等の子育てに関することや健康や介護等の不安に思っていること、友人との付き合いの中で楽しかった等が話題となっています。

●国際協力

◆ユニセフ

24回目となるユニセフお年玉募金に取り組みました。2016年度は、「アフリカ干ばつ緊急募金」や、6年目となる「CO・OPコアノンスマイルスクールプロジェクト※」にも取り組んでいます。

※CO・OPコアノロール等を1パック購入度に、アンゴラ共和国の「子どもにやさしい学校づくり」のために1円が募金されます。

◆ハンガー・フリー・ワールド

国際協力NGOハンガー・フリー・ワールド※の「書き損じハガキ回収キャンペーン」に協力しました。

※飢餓のない世界をつくるために活動する民間の国際協力団体です。

書き損じハガキや切手などを集めて換金し、その資金を元にブルキナファソ、ベナンなど4カ国で活動しています。



ユニセフお年玉募金贈呈式

●被災地支援

自然災害等で被災された地域への支援を継続しました。

熊本・大分の地震への対応

4月の熊本・大分の地震に対し、全国の生協とともに支援活動に取り組みました。

●募金活動

被災された方々を支援するための緊急募金に取り組みました。集まった募金は日本生協連を通じて全額を被災地に送金しました。

●生協くまもとの事業支援

生協くまもとの事業支援のための職員を派遣し、店舗支援や宅配添乗、共済金請求案内の訪問に取り組みました。

●産直産地のお見舞い訪問

農産商品の取り引きを担当する職員を中心に、熊本県の産直生産者へのお見舞い訪問を行いました。

●仮設住宅への引っ越しを支援

避難所から仮設住宅への引っ越しが始まった7月、職員2人を引っ越しの支援活動に派遣しました。

●仮設住宅でのサロン活動の支援

生協くまもとが取り組む仮設住宅でのサロン活動「こーぶ喫茶」に京都のお菓子を送付し、活動を支援しています。



募金活動



生協くまもとでの店舗支援



引っ越し支援

鳥取地震への対応

10月21日の鳥取県中部地震に対し、緊急募金に取り組みました。また地震で被害を受けられた大山乳業農協やJA鳥取中央を理事長ほか役員がお見舞い訪問しました。

岩手県・北海道の台風被害への募金活動

8月の岩手県・北海道での台風被害に対し、緊急募金に取り組みました。

東日本大震災支援

東日本大震災への支援を継続しています。

被災地生協では、被災された皆さんの交流やふれあいの場として「サロン活動」を継続して行っています。京都生協は定期的に京都のお菓子をお届けし、サロン活動を応援しました。

夏休みに南三陸町子どもたちを京都に招き、他団体や多くの支援者と協力して「第5回海の虹プロジェクト」を実施しました。南三陸町の中学生・高校生34人が参加し、京都府各地を訪問・交流しました。

年末には鳥取県産農協・みやぎ生協のボランティアと協力し、宮城県南三陸町志津川漁港と登米市南方町の仮設住宅で、餅つきと炊き出しを行いました。



JA鳥取中央福山組合長(右)にお見舞いをお渡ししました



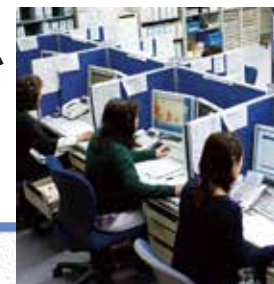
「海の虹プロジェクト」でのお茶摘み体験

●昨年のレポートの感想から

・いろいろな方面に多岐にわたって活動していることがよくわかりました。

6 情報開示

組合員参加・コミュニケーションを促進し、情報開示と説明責任を果たします



組合員コールセンター

組合員の「声」を運営に活かすとりくみ

●組合員コールセンター

2012年度に「組合員コールセンター」が設置され、様々な意見・要望を受け付けています。「食品と洗剤類を分けて届けてほしい」など、組合員の声からしきみの改善につなげています。

電話対応実績

	苦情	意見・要望	問い合わせ	合計
2015年度	5万2358件	19万9121件	10万8610件	36万89件
2016年度	5万24件	19万9592件	11万2948件	36万2564件
前年比	95.5%	100.2%	104.0%	100.6%

●YYカードの運用

組合員から寄せられた苦情、意見・要望、リクエスト等は「YYカード(よくする&よかったよカード)」※として受け付けています。受け付けたカードは「組合員の声対応事務局」が迅速・丁寧・正確を目標に回答をすすめるとともに、組合員・職員・取引先とのコミュニケーション促進にも役立てています。

「苦情」は調査・分析を行い、原因究明と再発防止対策を明確にしています。「意見・質問」をもとに、関係部局で事業に活かすための検討会議を実施しています。

「リクエスト」についても商品案内や店舗の品揃えの改善に活かしています。

※支部や店舗で組合員の商品に関する苦情・意見・リクエストなどを記入する用紙



組合員の声対応事務局でのチェックの様子

寄せられたYYカードの数

	苦情	意見・質問	リクエストなど	合計
2015年度	3179件	996件	242件	4417件
2016年度	2786件	926件	198件	3910件

組合員の声からの実現事例

組合員の声

におい移りが心配なので、食品と日用品を別の袋に入れて届けてほしい。

こめ油を使ってみたが大きな規格しかないで、100g程度のものを作ってください。

4年前に購入したチタン腹巻が古くなってきました。企画をお願いします。

実現事例

物流の仕組みを変更し、別の袋でお届けできるようになりました。

数量限定ですが、少量規格の商品を企画いたします。

少し先になりますが、要望をいただきましたので企画します。



お届け方法の改善を案内したチラシ「ここにこほっぺ」

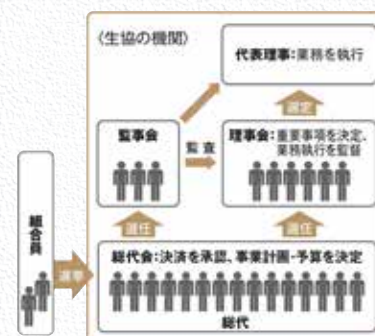


2016年度 PICKUP

- ◆見守り協定が京都府内22市町村に広がりました
- ◆お買物サポートカーの運行が2台増加し6台となりました
- ◆移動店舗「おかいもの便」の2号車の運行準備を始めました

適正な運営をすすめるためのしくみ

生協が社会的責任を果たすためには、「機関運営」が適正に行われることが必要です。「機関」とは、法人の意思決定、決定された意思を執行、意思決定や執行の状況を監視するために法人の内部におかれる機構のことを指します。生協で機関にあたるのは、最高議決機関としての「総代会」、総代会決定に基づいて財産管理を含む業務執行全般についての重要事項を決定する「理事会」（生協を代表して業務を執行する「代表理事」を含む）、理事による業務執行の状況を監査し、適切な業務が行われるようにする「監事」（監事会）です。各機関がそれぞれの役割を果たすことで、適正な運営がすすめられます。



●総代会

最高議決機関である「総代会」では、総代が組合員の代表として、決算や方針・予算などの議案について決定します。総代には必要な情報が提供され、理解を深めるための話し合いの場が必要となりますので、地区別の総代会議や懇談会を開催しています。また、新しく総代になられた方には、オリエンテーションを開催しています。

2016年6月9日に開催された第52回通常総代会では509人中496人の総代出席（委任・書面議決含む）により、第1号から6号までの全議案を賛成多数で可決しました。その内容は、機関紙「コーポロ」・ホームページを通じて総代以外の組合員にもお知らせしています。



第52回通常総代会での採決の様子

経営状況や理事会方針等の情報を提供するために、毎月「総代つうしん」を発行しています。またホームページの総代専用サイトでも、同様の情報を提供し、総代からの質問・意見を受け付けています。機関紙「コーポロ」では、総代会の報告等を行っています。

●理事会

毎月の理事会では業務の遂行状況を確認し、必要な意思決定を行っています。第52期の体制は組合員理事12人、有識理事5人、代表者として業務を執行する代表理事2人を含む常勤理事4人の21人です。2016年度は理事会を13回開催しました。

●監事 （監事会）

監事（会）は常勤監事1人、有識監事3人、組合員監事2人の6人体制で理事の職務の執行を監査しています。理事会その他重要な会議への出席、業務と財産の調査等を実施し、総代会にて監査の結果を報告します。2016年度は監事会を毎月、代表理事との会合を年4回開催しました。

7 経営責任

健全で強い事業経営を築き、組合員から負託された経営責任を果たします



大規模災害を想定した図上訓練の様子

社会的な役割を発揮するための組織運営

●マネジメント システムの運用

マネジメントシステムとは「めざすべき方針や目標を定めて、その目標を達成させるためのシステム（しくみ）」です。

京都生協では、ISO9001（品質保証による顧客満足向上を目的とするマネジメントシステムの国際規格）を参考に、総合的な「業務マネジメントシステム」を運用しています。仕事の改善をすすめ、商品・サービスの向上、事業計画の達成を目指します。

●内部統制 課題の整備

社会的な役割を発揮する前提として、公正で健全な組織運営が不可欠であり、内部統制を構築することはその基盤ととらえています。京都生協では2010年に「内部統制基本方針」を定め、「業務の有効性および効率性」「財務報告の信頼性」「事業活動に関わる法令等の順守」「資産の保全」という4つの目的を達成するために、毎月開催するリスク管理委員会で整備計画の進捗管理を行っています。

また、独立の立場で経営諸活動の全般にわたる制度及び業務執行状況を監視・検証するとともに、内部統制システムの構築の進捗状況、運用状況や有効性等についてモニタリングを行うため、内部監査担当による監査を実施しています。

●コンプライアンス 体制の推進

2005年に「コンプライアンス基本方針」「コンプライアンス自主行動基準・順守事項」を定め、倫理・法令や社会規範、および職場のルールを守り、正直で誠実な事業と活動をすすめるための職員教育に取り組んでいます。

毎年のCSR教育で全職員に配布する「コンプライアンス自主行動基準・順守事項Q&A」冊子に、パワーハラスメント、ネット上での情報発信、反社会的勢力との関係断絶、飲酒運転の撲滅などに関する注意喚起を掲載して啓発に努めています。

◆個人情報保護

業務上のルールを明確にし、個人情報の適正な取得・利用・管理に努めています。業務で使用するパソコンからのデータ持ち出しを防止するセキュリティ対策を行い、個人情報を預託する取引先とは、個人情報取り扱いに関する覚書きを交わすなど、適正利用と安全管理を義務付けています。発生した個人情報事故（紛失など）については報告書の提出を義務付け、原因分析と再発防止の対策を確認しています。

◆ヘルプライン窓口の設置

法律や生協内のルールに違反した行為についての通報を受け付けるコンプライアンス相談窓口（ヘルプライン）を外部に設置し、職員・取引先への周知を行っています。通報者は規程により不利益な処遇を受けません。



2016年度 PICKUP

◆寄せられた組合員の声から、物流のしくみの改善などを実現しました

昨年のレポートの感想から

・今後も利用者の声を取り入れて、改善に取り組んでください。



2016年度 PICKUP

◆経常剰余予算を達成しました

グループ会社の環境保全のとりくみ

京都協同食品プロダクト(株)

◆省エネルギー・省資源のとりくみ

1) 省エネルギー

	昨年対比目標	実績	評価	達成・未達成要因
電気使用量	99%	99.9%	△	ソフト面で施設、設備のメンテナンスや、従業員の節電励行を社内全体で共有しました
ガス使用量	99%	101.5%	×	生産量の増大に伴う洗浄ボイラーの使用拡大とボイラータンク容量を増やし洗浄能力をアップしたことも影響しました

2) 省資源

①コピーカウント数

	昨年対比目標	実績	評価	達成・未達成要因
カウント数	99.7%	122%	×	部内、外部資料、会議資料、記録表、識別表等の拡大によるものです

◆事業系廃棄物削減のとりくみ

1) 生ゴミ排出量削減のとりくみ強化

- ①歩留まり向上の強化
目標歩留まりを設定して技術のレベルアップを計り、歩留まり率の向上に努めました。
- ②原料の最大限の商品化努力
魚の規格外部分の商品化に積極的に取り組みました。刺身の切身作業時に出る端材については、「海鮮丼用」で商品化を行い店舗へ供給しました。他の端材は社内販売で商品化しております。
- ③在庫削減努力
発注数量の適正化及び棚卸業務の精度アップや、社内販売の活用で在庫の削減に引き続き努めました。

2) 定期的なゴミ総量の測定を実施しました

- ①毎月一週間連続で事業系廃棄物の重量調査を実施しました。

〈2016年度再資源リサイクル率〉(内は2015年度比

総排出物量	再資源・リサイクル量	一般廃棄物量	再資源・リサイクル率
191.6t (134%)	178.0t (136%)	13.6t (110%)	92.9%

3) リサイクル活動の推進

- ①印刷用紙の分別収集による裏面利用の励行(宅配納品用紙は片面使用)
- ②帳票用紙のカットによる再使用を全社員に徹底しています。
- ③両面使用後の紙リサイクル分別管理の徹底強化
- ④発泡スチロールの再利用

4) 各種報告事項の順守に努めました

- ①容器包装リサイクル協会への再商品化義務量及び委託料金を報告しました。

(株)コープネットワークサービス(CNS)

- ◆生協組合員からリサイクル推進への要望を受け、2005年4月より環境事業に取り組んでいます。環境リサイクル関連の事業規模は年間約2600万円です。
- ◆リサイクル事業では、2016年度はペットボトルの圧縮作業85t、発泡スチロール箱79t・卵パック24t・集品用の内袋及びプラスチック製梱包バンド6t、食品トレイ15tをリサイクル資源として回収しました。
- 7月より農産加工センターで排出される発泡スチロール箱の処理業務を開始しました。
- ◆営業推進物販部門では、LEDを南丹支部に販売・設置しました。
- ◆個配事業分野では、2016年度にグリーン経営認証を更新取得し、エコドライブ燃費改善など環境に優しいドライビングテクニックの向上に努めています。また、2013年度にはSR(セーフティーレコーダー)を個配の全事業所に導入し、安全運転面はもちろん、省エネ運転の強化に取り組んでいます。

(株)京都コープサービス

- 京都生協の本部オフィス業務に係る運用手順に準じた実践に努めています。
- ◆コープ保険サービスでは、保険契約者へWeb約款切替え協力をお願いし、紙削減に取り組んでいます。
- ◆コープハウジングでは、断熱窓などの省エネリフォームや太陽光発電、省エネタイプの給湯器・設備の普及に取り組んでいます。
- ◆コープ文化サービスでは、車の長持ちを考えた車検「ながもちくん」やエアコン掃除などのハウスクリーンの取り扱いも行っています。
- ◆京都生協施設からの廃棄蛍光灯の回収(2016年度2965本)を行っています。

※(株)コープストアサービスは、京都生協の店舗事業のとりくみに準じて、環境保全に取り組んでいます。

外部審査の結果

KES登録審査

◆審査機関

特定非営利法人KES環境機構

KESとは Kyoto=京都
Environmental Management System=環境マネジメントシステム
Standard=スタンダード
京都議定書の発祥地、京都から発信された「環境マネジメントシステム」の規格です。

◆受審組織

京都生活協同組合

◆審査実施日

2016年9月12日、9月15日

◆適用規格

KESステップ2SR

◆審査目的

京都生協のマネジメントシステムが、
KESステップ2SRの要求事項に適合しているかを審査すること。

◆審査結果

①審査結果

KESステップ2SRに適合していると判断されました。

②グッドポイント1件

多くの拠点、職員がいる中で、計画した教育訓練及び必要な力量と能力開発を実施し、記録管理の運用を行っていることが評価されました。

③観察事項1件

環境保全についての不適合判断の判断基準が複数あるため、整合させ運用する必要があると指摘を受けました。

◆監査対応

観察事項については、必要な改善処置を実施し、次回の確認審査の際に確認をいただきます。

本部 〒601-8382 京都市南区吉祥院石原上川原町1-2
 理事長 畑 忠男
 創立 1964年11月27日
 事業活動エリア 京都府全域
 事業所 支部10 店舗18
 介護事業所8(デイサービス含む) 葬祭事業1
 子会社・関連会社 5社

2016年度概況(2017年3月20日現在)

組合員数 52万9805人
 事業高 760億1519万円
 出資金 157億4721万円
 職員数 1655人(7.5H換算)

編集発行及びお問合せ先

京都生活協同組合 CSR推進室 〒601-8382 京都市南区吉祥院石原上川原町1-2
TEL 075-672-6304 FAX 075-661-4311

ホームページ
<https://www.kyoto.coop/>
 公式フェイスブックページ
<https://www.facebook.com/kyotocoop/>



ケータイ・
 スマホは
 こちらから

発行/2017年5月

- 対象期間/2016年3月21日～2017年3月20日
- 対象範囲/京都生活協同組合(全部局・事業所)

編集方針

環境や社会とのかかわりにとどまらず、組合員、取引先、職員、
 地域コミュニティなど「ステークホルダー(事業活動の関係者)」全般に対する
 京都生協の社会的責任をISO26000(社会的責任に関する手引)を
 参考にまとめ、特徴的な項目を選択しました。

